



速報

第6号

の防災を学びました。
ため、みんなで津波
や津波に備える
分らない地震
こで発生するか
波の例も。いつど
で運んだ明和の天津
高30メートルの場所ま
ンもある大きな岩を標
の、二百年前には何ト
地震や津波は少ないも
ながら、最近でこそ大きな
害は台風です。しかしな
宮古島の代表的な災

四方を海に囲まれ、標高が低い宮古島は津波の危険地帯です。過去の津波の被害や全国での対策などを楽しく学ぶことで、津波を避ける知識を身につけました。



速報

逃げるという津波の鉄則を 世代を超えて学びました

オープンして最初に
登場したのは砂川地区
の子どもたち。歓迎の意
味をこめてクイチャー
を披露してくれました。
その後、現在では風化し
つつある津波よけの祭
事「ナーパイ」の映像を
宮古テレビの協力のも
と放映。津波に関するク
イズも行われ、防災を学
習しながらも笑顔があ
ふれる『ぼうさいカ
フェ』となりました。



「逃げる専門家です」。
津波防災の専門家で群馬
大学工学博士の片田教授
が自己紹介すると、ドッ
と笑いが起こりました。
このオープン直後の笑い
で、終始リラックスした
雰囲気になり、クイズで
は多くの参加者が積極的
に参加。進行を担当した
宮古島サンゴ礁ガイドの
なかまたちの梶原さんが
場内の笑いを誘いつつ、
片田教授の分かりやすい
解説と、宮古島の歴史や
文化を熟知した宮古レシ
ビの下地さんの説明を、
参加者たちに的確に伝え
ることができました。



高まる熱気の中に
笑顔があふれ出る
場内の一体感

家族と一緒に
学んだよ
地震が起こったら、高
いところに逃げたらい
いとわかりました。家族も
友達も、みんなで助かり
たいと思いました。



場内が盛り上がった
のは「クイチャー」を披
露した少年少女たちの
おかげでした。クイズに
正解して喜んだり、プレ
ゼントに大はしゃぎす
る様子に大人たちは目
を細めていました。



盛り上げ役は 明るく元気な 砂川の子どもたち



宮古島の未来を
守るためにみんなで
理解を深めました

さまざまな世代が参加
したため、終了後に感想
をたくさん聞くことがで
きました。「ナーパイは幼
い頃から聞かされてきた
が、あらため実感できた」
「逃げなかつたことを後
悔したくない」「避難でき
る高い場所をすぐに探し
たい」「楽しく学べて対策
も分かった」「すぐに家族
と学んだことを話し合
います」など、津波への予防
の意識が高まりました。

